

ナラティブ・メディア研究会第13回研究会

児童文学をめぐって

研究発表1 「児童文学における推理小説」

小山 修平(情報科学研究科修士課程1年)

児童文学研究において、「SF」「ファンタジー」などが確立したジャンルとして扱われるのに対し、「推理小説」が固有のジャンルとして取り上げられることはあまりなかった。しかし、子ども向けに『シャーロック・ホームズ』シリーズの翻案がいくつも出版され、日本人作家もまた多様な推理小説を手がけている現状を見れば、児童文学において「推理小説」が大きな位置を占めていることが分かる。本発表では、はやみねかおるや松原秀行、あさのあつこなどを主に取り上げながら、現代日本の児童文学において「推理小説」はどのように立ち現われるのか考察していく。

*

研究発表2 「児童文学の領域 —拡大・縮小・融解?—」

宮本 祥子(文学研究科修士課程1年)

70年代以降の新しい少年少女向け文学のなかから、特にYA(ヤングアダルト)というジャンルの興隆とその傾向を取り上げ、「児童文学」の定義を問い直す。

2011年1月26日(水)15:30~18:30

東北大学大学院 文学研究科棟3F 中会議室

どなたでも興味のある方の来聴を歓迎します(事前申し込み不要)

問い合わせ先:

文学研究科 森本浩一 (xkc-m2rt@sal.tohoku.ac.jp 電話 795-5969)

情報科学研究科 森田直子 (morita@media.is.tohoku.ac.jp 電話 022-795-4788)